

忠信で思慮深い奴隷であることによって、
主の来臨のために自分自身の用意を整える

聖書：マタイ 24:45-51

I. 「そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？ 主人が来た時、そのようになっているのを見られる奴隷は幸いである。まことに、わたしはあなたがたに言う。主人は彼に自分の全財産を管理させるようになる」——マタイ 24:45-47：

A. 信仰の中にある神のエコノミーは、神の「家庭」のエコノミー、神の家庭の行政です。それは、彼ご自身をキリストの中で、彼の選ばれた人の中へと分与し、家を得て、ご自身を表現することです。その家は召会、キリストのからだです—— I テモテ 1:4, 3:15, エペソ 2:19。

B. 忠信で思慮深い奴隷は、神の家の執事、家庭の管理者であり、キリストを「食物」として彼の信者たちに分与します—— I コリント 9:17, エペソ 3:2, I コリント 4:1, I ペテロ 4:10：

1. 忠信さは、主に対して示されるものです(I コリント 4:2, 7:25)。思慮深さは、信者たちに対して表されるものです(参照、コロサイ 1:28, 歴代下 1:10, ピリピ 4:5)。

2. 天の王国の実現において、主は忠信な奴隷にご自身の全財産を管理させます。これは、彼の奴隷に対する褒賞となります——マタイ 25:21, 23。

C. 「食物を与える」とは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として信者たちに供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、彼は命の言葉の中に具体化され、実際化されています——24:45, ヨハネ 6:57, 63, 68：

1. 主をわたしたちの霊的食物として享受して、他の人たちを養うことができるようになるために、わたしたちはすべての祈りによって、また彼の言葉を思い巡らすことによって、すなわち、多くの再考をもって彼の言葉を声に出して語ることによって、彼の言葉を受け取る必要があります——エペソ 6:17-18, 詩 119:15 (参照、フットノート), 48, 148, ヨシュア 1:8, レビ 11:2-3, エゼキエル 3:1-4, コロサイ 3:16。

2. わたしたちは、祈りと言の務めを堅く持ち続ける必要があります——使徒 6:4, 参照、ヘブル 7:25, 8:2。

3. わたしたちは預言して、召会を建造する必要があります。すなわち、わたしたちの霊を活用することを通して、聖霊の即時的で新鮮な靈感と油

塗りと照らしの下で、この命の生ける言葉を用いて、わたしたちの見て
いるものを語る必要があります——Ⅰコリント 14:4 後半、使徒 5:20、
4:20、22:15。

4. わたしたちは、自分自身を神の中へと祈り込み、命を与える霊をわた
したちの供給、わたしたちの霊的食物として受けて、わたしたち自身とわ
たしたちの顧みの下にある人たちを養う必要があります——ルカ 11:1-
13。

5. わたしたちは、命を与える「祈り求める者」、すなわち人に命を与える
ことができる、命を与える霊の経路となる必要があります——Ⅰヨハネ
5:16。

6. わたしたちは、「新鮮な油の子」となって、歓喜の油としての、新鮮な、
現在の、究極的に完成された霊で絶えず満たされて、その霊を燭台の中
へと流し出し、燭台を輝く証し、すなわちイエスの証しとならせる必要
があります——ゼカリヤ 4:6、12-14、ピリピ 1:25、啓 3:18、マタイ
25:9：

a. 毎日わたしたちは、代価を払って、神聖な性質における金の油として
の神をさらに多く獲得する必要があります。それは、わたしたちが純
金の燭台となって、金の新エルサレムを建造することができるため
です——Ⅱペテロ 1:4、啓 3:18、1:20、21:18、マタイ 25:8-9。

b. わたしたちは、この事柄をわたしたちの今日の経験に適用するとき、
わたしたちから流れ出るその霊が神であり、また神が金であることを
見ます。こういうわけで、わたしたちはキリストを他の人に供給し、
彼らに油を供給するとき、実は彼らに神を供給しているのです。神
はわたしたちから流れ出て、彼らの中へと流れ込みます——ゼカリヤ
4:12-14、ヨハネ 7:37-39、Ⅱコリント 3:3、6、8、ルカ 10:34。

Ⅱ. 「しかし、その邪悪な奴隷が心の中で、『わたしの主人は来るのが遅れる』と
言い、奴隷仲間を打ちたたき始め、酔っ払いどもと食べたり飲んだりする
なら、その奴隷の主人は、思いがけない日、知らない時に来て、彼を断ち
切り、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこでは、泣き叫んだり歯がみし
たりする」——マタイ 24:48-51：

A. わたしたちが心の中で、「わたしの主人は来るのが遅れる」と言うことは、
今の邪悪な世を愛し、主の出現を愛さないことです——Ⅱテモテ 4:8、10：

1. 「来る(来臨)」のギリシャ語は、「パルシーア(parousia)」であり、「臨在」
を意味します。主の出現、主の来臨を愛するために、わたしたちは今日、

主の出現、主の臨在を愛していなければなりません——マタイ 24:3, 37. 使徒 26:16. II コリント 2:10. 詩歌 389 番。

2. わたしたちに今日がある限り、わたしたちは主と主の出現を愛し、主の来臨を待ち望み、主の来臨を警告、励まし、動機づけとすべきです——II テモテ 4:8. ピリピ 3:20. 啓 22:12。
 3. わたしたちは主の来臨のために、目を覚まし、用意をする必要があります——マタイ 25:13. 24:44. 啓 19:7。
 4. わたしたちはむさぼりに注意し、自分のために宝を蓄えることをせず、神に対して富んでいる必要があります——ルカ 12:16-20. II コリント 6:10. エペソ 3:8。
 5. わたしたちはロトの妻を思い出す必要があります。そして、神が裁き徹底的に滅ぼす邪悪な世を、愛したり尊んだりしないようにする必要があります——ルカ 17:28-32。
 6. 主の来臨の日が罌^{わな}のように、突然わたしたちに襲いかかることがないように、わたしたちは目を覚まして、祈り求めている必要があります——21:34-36. 参照、マタイ 2:3。
 7. 「主イエスよ、来たりませ！」——これは、主と主の出現を愛する人々の切望、叫び、絶え間ない祈りであるべきです——啓 22:20. テトス 2:12-13。
- B. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、信者仲間を虐待することです——参照、使徒 9:4：
1. わたしたちは、わたしたちの信者仲間を裁いたり罪定めしたりすべきではなく、彼らに対して親切であり、情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、彼らを赦すべきです——ルカ 6:37. エペソ 4:31-32。
 2. わたしたちは、わたしたちの兄弟たちをののしったり批判したりすべきでなく、彼らを自分自身よりすぐれていると思うべきです——I コリント 6:10-11. ピリピ 2:3, 29。
 3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間たちの上に権力を振るうべきではなく(例えば、彼らに代わって決定するなど)、奴隷として彼らに仕え、命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養うべきです——I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-28. 参照、民 17:8。
- C. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、世的な事柄で酔いしれているこの世の人々との交遊を保つことです：

1. 信者は、彼らの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、未信者と共にくびきを負うべきではありません。これは、結婚や仕事だけでなく、信者と未信者の間のあらゆる密接な関係に適用されるべきです——Ⅱコリント 6:14. Ⅰコリント 15:33. 参照、箴 13:20。
 2. わたしたちは、若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求める必要があります——Ⅱテモテ 2:22。
- D. 王国の実現において、忠信で思慮深い奴隷は、支配する権威を褒賞として与えられます。しかし、邪悪な奴隷は、栄光のキリストから、彼の王国の栄光から、彼の王国にある彼の栄光の臨在から断ち切られます——マタイ 24:47, 51:
1. 王国の実現から断ち切られることは、外の暗やみに放り出されることです。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりします：
 - a. 外の暗やみとは、王国の実現における輝く栄光の外にある暗やみです——16:28. 25:30。
 - b. 泣き叫ぶことは後悔を示し、歯がみすることは自責を示します。
 2. 千年王国においてキリストと共に諸国民を王として支配することは、彼の忠信で思慮深い奴隷に対する賞となります——啓 2:26. ルカ 19:17-19。